

令和5年度新SBIR制度加速事業(フェーズ1) 所見

対象施策	評価項目	委員の所見 (優れた点や改善を要する点など)
【科学技術振興機構(JST)】 大学発新産業創出プログラム(START)プロジェクト推進型(SBIRフェーズ1支援)	1. 計画に示した取組の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・採択数は目標を達成してはいないが、研究開発課題に対応した資金提供先が結果として採択されている点は評価できる。なんらかの形で、応募の母集団を増やすことができれば、更に良い結果につながるであろう。 ・採択率が目標から下回ってはいるが、応募要件の特殊性を考えると適正な範囲と考える。 ・基礎的なソーシング、管理、支援に関するプラットフォームは完成しており優れている。 以下の2点において、改善することでより価値が向上すると考える。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 過年度の採択案件がより前に進めるための機能強化(教育コンテンツ、外部資本連携等) 2. 採択案件は一般的に減少傾向になりやすいため、案件ソーシングの方法、量を変化し続けることで目標達成を目指すこと ・全体としての採択率33%は現状の日本のスタートアップの実績としては十分に評価できる。それだけの採択率で満足度も高く、今回の事業の取り組みを全体として評価したい。
	2. 取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・採択者からの取り組みに関する満足度も高い。今後は、最終的なマーケットを、より強く意識しながら事業のストーリーを作ることに関するメンタリングなども、必要に応じて取り入れることができると考える。過去採択課題のフェーズ2への採択状況も評価できる。 ・一定の確率でフェーズ2へと進展しており、また起業に至る事例も生まれている。 ・採択された案件がおおむね前進していることが評価されるべきと思慮する。 ・フェーズ2への移行に際しても、ポジティブな反応が出ており現状では良しとすべき。
	3. 事業体系の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ元省庁、内閣府との連携も取れており、バランスのとれた事業体系が構築されている。今後は、最終的なマーケットを見据えた上でのビジネスモデル構築に向け、ビジネス講習会をより充実させるという方策も考慮に値する。 ・多様な専門性を持つ人的ネットワークを構築し、それを活かした支援となっている。 ・評価項目1「計画に示した取組の着実な実施」に関わる領域については、より改善の余地があるのではないかと思慮する。 ・事業体系の構築自体は順調である。案件の絞り込み、そのフォローの手法などもうまく進んでいるがゆえに、全体としての参加者の満足度の高さに繋がっているのではないかと思う。
	4. 「指定補助金等の交付等に関する指針」の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた研究開発期間の中で、結果に繋げるための方策が取られている。今後は、より長い研究開発期間を設定することができることに伴い、採択者の満足度も上がり、事業につながるより良い研究成果が生まれることが期待される。 ・自己評価はBであったが、多面的に制度を利用しやすい形に改善しようとする姿勢が評価できる。 ・基本的に要素を全て満たしており、要素によっては上回っている。 ・サポート体制について、もう少し参加者の反応を勘案しながら修正する必要もあるのではないか。たとえばビジネス講習についてはもう少し教習内容などもチェックすべきではないか。

令和5年度新SBIR制度加速事業(フェーズ1) 所見

対象施策	評価項目	委員の所見 (優れた点や改善を要する点など)
【新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO)】 研究開発型スタートアップ支援事業(SBIR推進プログラム)	1. 計画に示した取組の着実な実施	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発課題がカバーする範囲の狭さという制約もあるが、応募の絶対数を、今後も可能な限り増加させる施策が求められる。応募の母集団を増やす、もしくは応募率を高めていくことを目指したい。個別の採択事業者の事業内容、今回の研究開発内容が明示されていないため、具体的な評価は困難であるが、研究開発課題と採択事業者が適切にフィットしていない可能性も残されている。 ・研究開発課題の設定にあたる事前調整をするなどの工夫により、より多くの対象企業が応募し、また可能性のあるものが採択される状態を目指すべきと思う。 ・採択数は一定の成果を示しており、特に母集団形成について評価されるべきと考える。一方、採択されている案件は外部資本を調達済みの案件も複数あり、案件側の体制はJSTに比べ元来より高いように見受けられるが、採択後の進捗が十分とは言えず、NEDO側の体制においては付加価値がつけられる体制構築が望まれる。 ・全体として飛び抜けた進捗ではないが、参加者の数、セミナーの回数、勉強会の開催、またそれへの反応、そして採択率の向上などなど事業自体は着実に進んでいる。
	2. 取組の効果	<ul style="list-style-type: none"> ・現状での研究開発目標の達成率が著しく低い事業が2件ある。採択者からの取り組みに関する満足度も、平均的には高いものでなく、事業体系の再構築などが必要となる可能性も高い。採択事業者が全て起業済みである点は評価できる。 ・ニーズ元からのメンタリングによる研究開発の促進効果に大きな意義があるという大前提の上で、より将来的な政府調達に向けた調整に踏み込んだ支援、SBIR独自の取り組みの拡大をすべきと考える。 ・研究資金提供の効果、機能的支援共により期待されるものがあるのではないかとくに資金提供後の支援体制についてより効果を発揮する体制構築を期待する。 ・取り組みの効果として、アンケートの結果を中心に評価していることには少し疑問を持つ。より積極的な指標で「効果」の判断をすべきではないか。
	3. 事業体系の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズ元省庁および当該省庁のPMとの具体的な連携内容を確認し、事業体系・事業プロセスが適切に構築されているのかを再確認していく必要がある。取り組みの効果にも関連するが、グローバルな大きなトレンドを見据え、マーケティングを強く意識しながら、近い将来のグローバル展開が可能となる事業の採択につながる体制作りが必要である。 ・一定の確立された体制が構築されていること、また採択企業への個別の支援が一定程度評価される一方で、SBIRの独自性に根差した支援体制をより充実することを期待する。 ・資金提供後の支援体制についてより効果を発揮する体制構築を期待する。 ・ニーズ元の省庁との繋ぎを事業体系の構築の主な評価指標としているが、もう少し集中したKPIを設定しても良いのではないかと。
	4. 「指定補助金等の交付等に関する指針」の実施	<ul style="list-style-type: none"> ・繰り返しとなるが、主に応募の母集団を増やすことを通じて、ポーン・グローバルとなりうる事業者を発掘・採択していくとともに、PMとの適切な連携、またマーケティング面での支援を切り結んでいく必要がある。 ・多面的な取り組みとして利用しやすい制度を目指して実施していることを評価すると同時に、より踏み込んで、応募社数が増え、また採択された企業の満足度が把握され、またその満足度が高い状況となるよう希望する。 ・提出されている情報の範囲においては「順調である」と評価するのが適正と考える。 ・指針の実施として挙げられているイベントの開催、勉強会などがどの程度効果があったのか、それを図る指標を作っていくことも大事ではないか。